

# サイ協 リ協 泥土 再利用促進へ議論深める 廃石膏ボードテーマに公開講座

泥土リサイクル協会  
(木村孟理事長)は19日、名古屋市中村区の安保ホールで「廃石膏(せっこう)ボードリサイクルの社会実装に向けて」をテーマに公開講座を開いた。全国で廃石膏ボードビジネスに取り組む企業や建設会社、商社などから多数が参加した。写真。



防火性・遮音性・施工性

に優れた石膏ボードは、14年時点で450万ト以上出荷されている。一方で、排出は新築系35万トと解体系77万トの計112万トと推定されているが、新築系の96%が石膏ボード原材料等に再利用されているのに対し、解体系はわずか30%しか再利用されていない。

最終処分場である「管理型処分場」の確保が難しくなってきたという現状から、リサイクル用途の拡大が喫緊の課題となっている。公開講座はこうした現状を踏まえ、廃石膏ボードのリサイクル促進の道を探るもので、環境省および石膏ボード工業会が後援している。  
冒頭、林宏治石膏ボー

ド工業会専務理事が「廃石膏ボードのリサイクル促進は当工業会の最大の課題だ。関係者同士が知恵を出し合い、リサイクルが進むことを願っている」とあいさつ。

続いて、西川美穂泥土リサイクル協会コミニケーションズマネージャーが「廃石膏ボードリサイクルにおける問題点と課題の変化」、佐藤研一福岡大学教授が「社会実装に向けたガイドラインの重要性について」、布袋昌幹富山高専専門学校教授が「廃石膏ボードに関するアカデミックの取り組みの変化」をテーマに講演した。

最後にパネルディスカッションが行われ、工学的、環境安全性、製造、販売、排出事業者と利用者などをキーワードに意見交換し見識を深めた。